

チャイロチビヒラタカミキリ, その後

小西和夫

2021年5月25日に北但馬(香美町香住区御崎)でチャイロチビヒラタカミキリ *Phymatodes* (*Phymatodellus*) *infasciatus* (Pic, 1935)を確認した(小西, 2021)伐採地から, 同年10月に粗朶に絡まる枯蔓を持ち帰った。

この枯蔓から, 2022年3月29日と30日に6頭のシロオビチビヒラタカミキリ *Poecillium albicinctum* (Bates, 1873)が羽脱した。その後4月25日から5月9日にかけて, 同じ枯蔓からチャイロチビヒラタカミキリ18頭が羽脱。いずれも上翅が2色の個体である。枯蔓は巻きひげの特徴(2節出て1節出ない)からブドウ属(サンカクヅル, エビヅル等)と思われるが, 種名は同定できていない。なお島根県の報告では, 「ノブドウ(ノブドウ属)の枯蔓から羽脱」とある(氏原, 2021)。また「広島県のカミキリムシ」ではサンカクヅル(推定)の枯蔓のピーティングで得られたとされている(広島虫の会, 2018)。

小さな透明ケースに枯蔓とともに12頭を入れて観察したが, 昼間は活発に動き回り, しきりに交尾を試みる。翌朝, ケース内には4頭しか見当たらず, 部屋中探したが逃げた様子もない。ところが, 昼前にはまたケースの中を12頭が動き回っている。彼らは夜間, 枯蔓の羽

脱孔に潜んでいた。興味深い行動だが, 野外でも見られる習性なのか不明である。

末筆ながら兵庫県初記録ということで, 標本を収蔵していただいた人博の八木剛氏に感謝いたします。

○参考文献

小西和夫, 2021. 北但馬でチャイロチビヒラタカミキリを確認. きべりはむし (44)2: 46-47

氏原靖志, 2021. 島根県におけるチャイロチビヒラタカミキリの記録. すかしば (68): 34

広島虫の会, 2018. 広島県のカミキリムシ. p.67

(Kazuo KONISHI 兵庫県西宮市)



図1 透明ケース。



図3 ブドウ属枯蔓と羽脱孔。



図2 チャイロチビヒラタカミキリ(雄は腿節が太く発達する)。



図4 チャイロチビヒラタカミキリ(標本:八木剛氏蔵)上段:♂, 下段:♀。